

SID R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第2巻第28号

第28週(7月8日～7月14日)

発行年月日:平成14年(2002年)7月22日

発行:滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (28週)	累積報告数 (1週～28週)	平成13年 報告数
1類感染症	報告なし	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	4	4
	パラチフス	0	1	0
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	44
4類感染症	アメーバ赤痢	0	4	5
	エキノкокクス症	0	1	0
	急性ウイルス性肝炎	0	2	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	2
	後天性免疫不全症候群	0	2	6
	ジアルジア症	0	0	1
	ツツガムシ病	0	0	2
	梅毒	0	3	6
レジオネラ症	0	0	1	

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数		
	28週	増減	22週～27週
インフルエンザ	0		0.03
咽頭結膜熱	0.56		0.78
A群溶連菌咽頭炎	0.56		0.68
感染性胃腸炎	2.28		3.96
水痘	3.00		2.56
手足口病	1.31		0.49
伝染性紅斑	0.59		0.43
突発性発疹	0.38		0.61
百日咳	0		0.02
風疹	0.03		0.04
ヘルパンギーナ	1.97		0.60
麻疹	0.03		0.06
流行性耳下腺炎	1.22		1.25
急性出血性結膜炎	0		0
流行性角結膜炎	0.29		0.91
急性脳炎	0		0.02
細菌性髄膜炎	0		0
無菌性髄膜炎	1.14		1.17
マイコプラズマ肺炎	0.29		0.33
クラミジア肺炎	0		0
成人麻疹	0		0

*増減は、平成14年22週～27週の平均に対する今週との比較
増加 減少 変化なし

*太字は、今週の注目される疾患です。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**において公表されています。
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

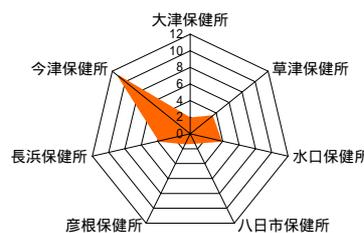
3) 今週のトピックス

無菌性髄膜炎の病原体情報

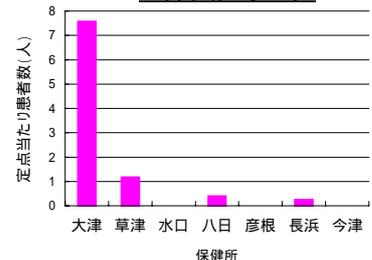
水痘、ヘルパンギーナの発生に地域的な偏り

滋賀県における定点当たり患者数について、平成14年22週～27週の平均と平成14年の28週を比較すると、水痘、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナに増加傾向がみられます。特に水痘は今津保健所管内で11.00、伝染性紅斑は長浜保健所管内で2.75、ヘルパンギーナは大津保健所管内で7.57となっています。水痘およびヘルパンギーナの保健所別発生状況は下記のグラフのとおりです。

水痘



ヘルパンギーナ



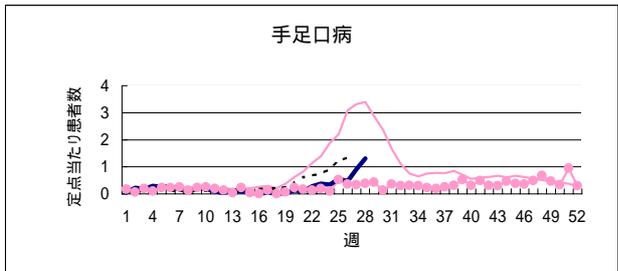
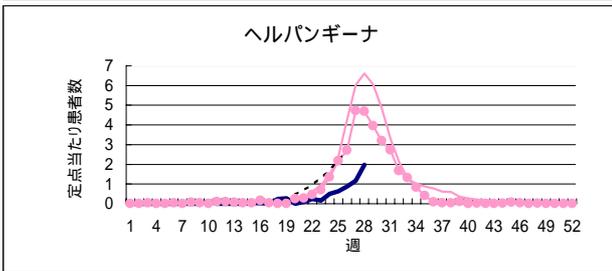
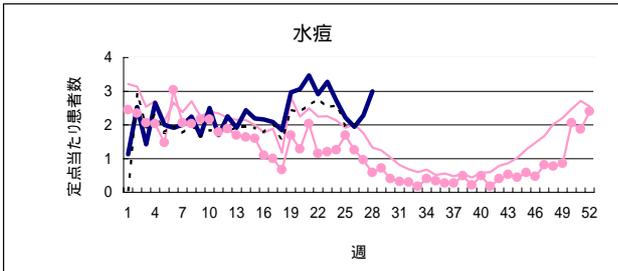
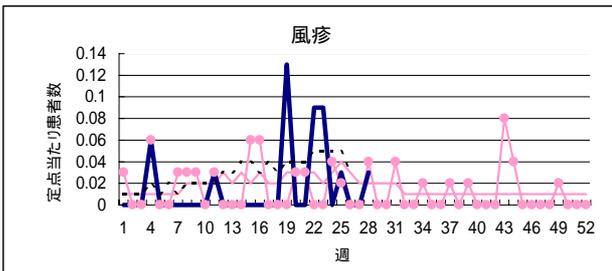
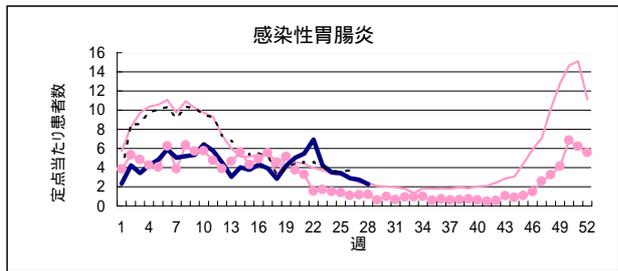
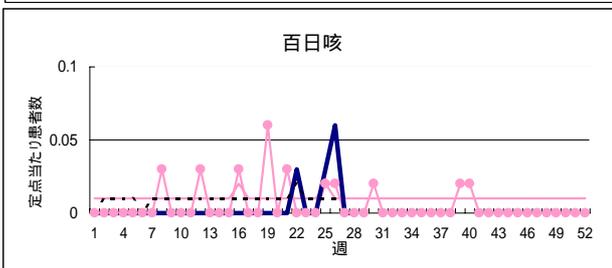
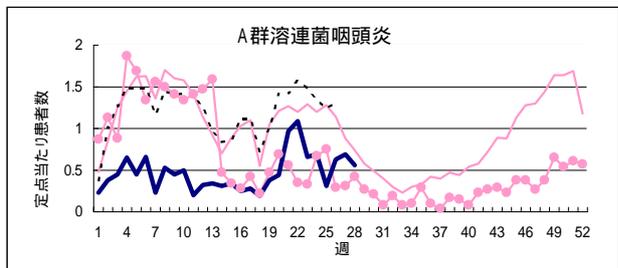
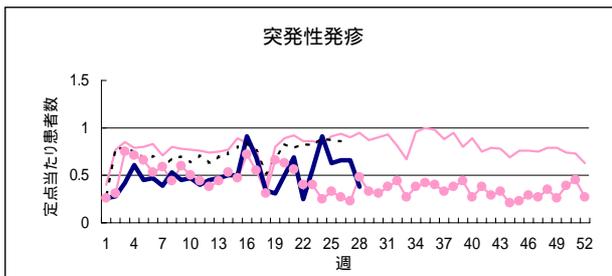
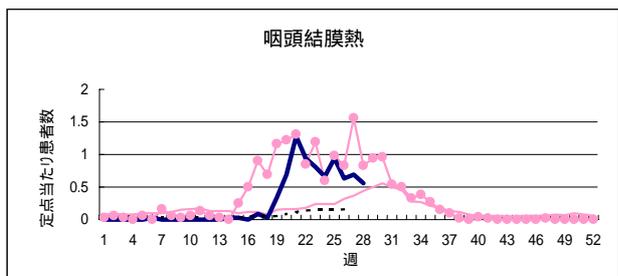
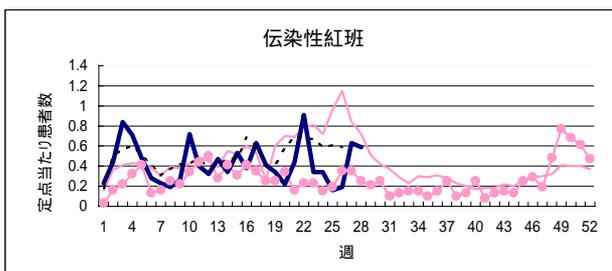
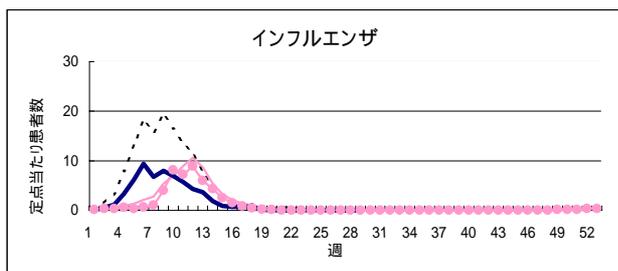
無菌性髄膜炎患者からのウイルス分離について(2002年、滋賀)

2002年滋賀県において、無菌性髄膜炎患者16名から分離されているウイルスは下記のとおりです。

採取月	分離人数	採取材料	分離ウイルス	分離件数
2002.3	1	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルスB5型	1
		糞便	"	1
2002.4 ～6	15	髄液	エコーウイルス13型	10
		咽頭ぬぐい液	"	6
		糞便	"	1

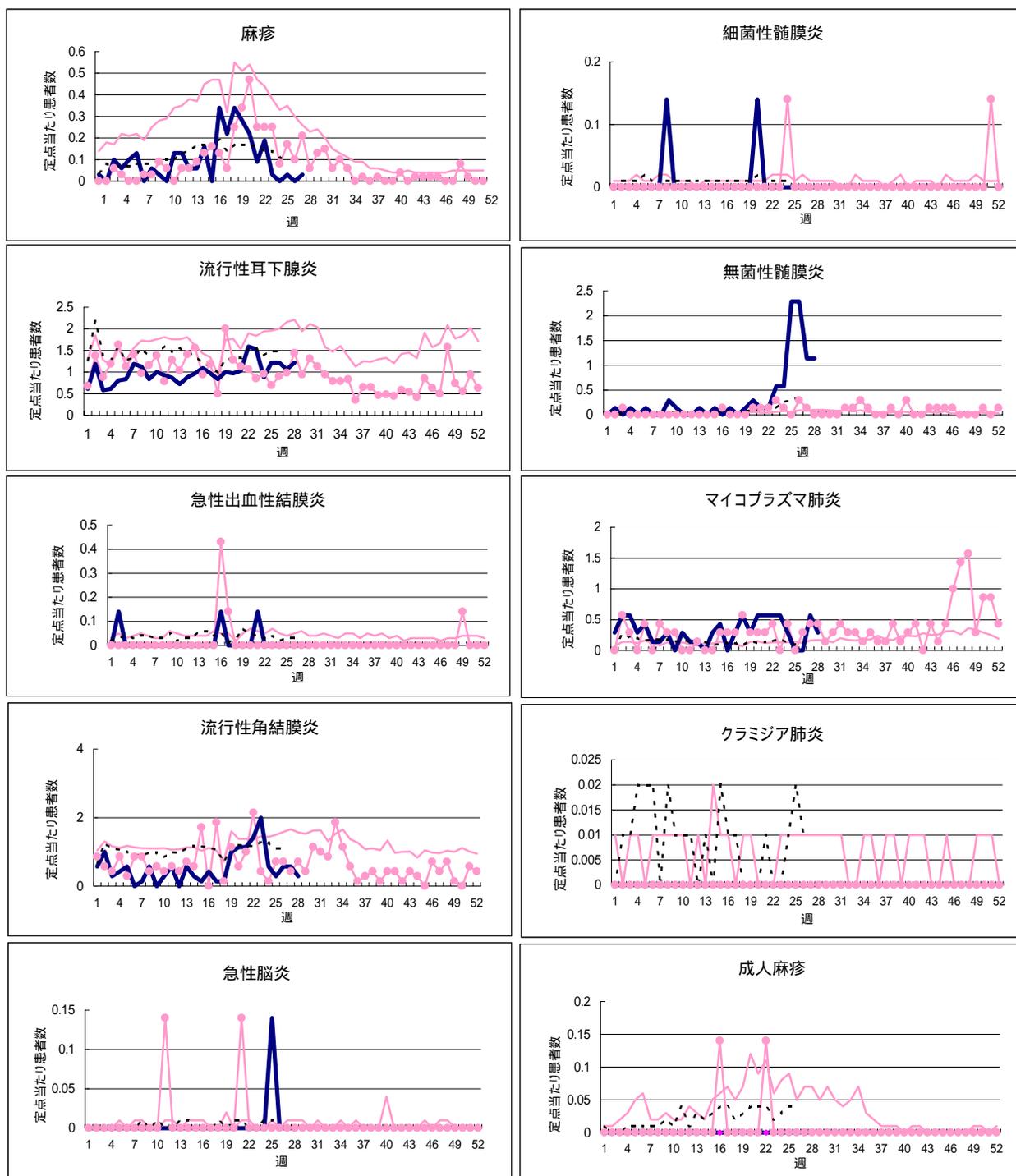
エコーウイルス13型が分離された患者の居住地は、草津市、大津市、近江八幡市、高島郡、甲賀郡および蒲生郡で、患者の年齢は4歳～14歳に分布しています。また、2002年の滋賀県における無菌性髄膜炎の主要因ウイルスは、エコーウイルス13型と考えられ県内の広い範囲で流行していると思われます。

疾病別定点当たり患者数(平成14年第1週～第28週)



H13 { 滋賀 ●●●●●
 { 全国 ————
 H14 { 滋賀 ————
 { 全国 - - - - -

疾病別定点当たり患者数(平成14年第1週～第28週)



H13 { 滋賀 ●——●
 { 全国 ————
 H14 { 滋賀 ●——●
 { 全国 - - - -